

誤解と偏見に苦しむ人のために ～HIV、エイズを知ろう～

HIV(ヒト免疫不全ウイルス)は感染すると免疫力が低下し、健康な人であれば何ともない菌やウイルスで様々な病気を発症します。病気を発症した状態をエイズ(後天性免疫不全症候群)といい、かつて不治の病と思われていましたが、現在は治療法の確立により死亡率が1%以下になりました。

早期発見、早期治療と継続によりHIV感染者はエイズの発症を防ぎ、感染していない人と同じような生活を送ることができるようになりました。しかし、病気に対する誤解から生じる理不尽な差別や偏見に苦しむ人は少なくありません。HIV感染者として日常生活を送るお二人にお話を伺いました。



※写真はイメージです。

誤解と偏見(Nさんの場合)

「エイズだと知ったとき、このまま自分は病院で亡くなるんだろうと思いました」。

HIV感染を知ったとき、その知識がなかったNさんは死を覚悟しました。Nさんが治療に前向きになったのは、合併症で脳に悪性リンパ腫ができたからです。医師からは生存率は40%と告げられました。死ぬのだと思い込んでいたNさんは40%も可能性があるのかと驚き、生きたいと考えるようになりました。

本人とは対照的に表情の暗かった家族は、医師から更に低い生存率を告げられていました。自分を気遣い、伝え方を選んでいてくれたのかもしれない、とNさんは振り返ります。

退院後の生活を支援してくれた家族ですが、病気への無理解に傷つけられることもありました。「トイレの後は必ず殺菌」「蚊には刺されるな」「大皿に盛った物ではなく個別に取り分けて食べて」など。また、親しかった知人に「もう訪ねて来ないでくれ」と言われ、HIVへの誤解と偏見の根強さに呆然としました。

後悔(Yさんの場合)

Yさんの感染が発覚したのは、パートナーの発症がきっかけでした。体調を崩したパートナーは、病院へ行く勇気が出ず先送りしていました。しかし歩行もおぼつかなくなり、病院を受診。糖尿病という診断を受け、2人は安心しました。心のどこかで、HIV感染を恐怖に思っていたからです。

しかしその後も病状は回復せず、結果、HIV感染が分かりました。Yさんも自身の感染を知りましたが、パートナーの看病に追われ、職場や家族には言えず、精神的に追い詰められていきました。

1年以上の闘病の末、パートナーは亡くなりました。自暴自棄になっていたYさんは、インターネットで知った某HIVサポート団体の支援を受け、病気と向き合い生活できるようになりました。

もっと早く病院を受診し、適切な治療を受けていたらパートナーを失わずにすんだという後悔、そして支援によって自身が救われた経験から、HIVで悩んでいる人、正しい知識を持つて治療を受けるようサポートしたいと、前向きに考えるようになりました。

正しく知り、予防する

Nさんは、若者の間でのHIV感染拡大を抑えるために、家庭での性教育の必要性を感じて

🚫 HIV無料匿名検査&パネル展

HIV、エイズの相談や検査は匿名・無料です。心配ごとがあれば、まずご相談ください。

	日	時間	場所	内容
HIV週間 即日無料匿名検査	12月4日(月)～8日(金)	9時半～11時半、13時～15時	市保健所(相談室105)	HIV クラミジア 梅毒 肝炎 (肝炎検査は市民対象で、初めての方のみ無料)
休日検査	12月10日(日)			
即日無料匿名検査	毎週月・水・金			
エイズ 夜間検査	毎月第1水曜日	17時～20時		HIV
パネル展	12月4日(月)～10日(日)	8時半～17時15分	市保健所1階ロビー	HIV、エイズについて

※検査は全て事前予約が必要です。

お問い合わせ / 検査予約 保健総務課 ☎ 853-7971



定期通院での検査数値や日々の自分の感情を細かく記録し、体調管理している

います。HIVだけでなく様々な性感染症を予防するためにも、安全な性行為についてきちんと親子で話し合ってほしいと言います。

YさんはHIV／エイズを「正しく恐れてほしい」と考えています。誤ったイメージを元に無闇に恐れるのではなく、正しい知識を元に予防することが重要だと。また、感染者は普通でない人だとは考えないでほしいと訴えます。

「HIVは感染したらこの世の終わりというわけではありません。排斥する対象でもないはずです」と真摯な眼差しで語りました。

主な紙面

- 誤解と偏見に苦しむ人のために「HIV、エイズを知ろう」…1
- 文化は観光コンテンツになり得るか?…2
- 環境トピックス／市の財政状況について…3
- いま考えたい お酒との付き合い方／情報バック…4～7
- 博物館トピックス／ニュースダイジェスト…8

市長室

ほしいたい! 幹子やいびくん
健診受診で健やかな毎日を

生活習慣病の予防・改善を目的とする特定健診を開始してから今年で10年目になります。

市では、国民健康保険加入の対象者に、無料で特定健診と特定保健指導を行っています。受診率が低く、対象者の約6割が健診を受けていない状況です。主な理由は「元氣だから」「忙しいから」「病院がいやだから」「通院しているから」など。とても心配です。

特に沖縄県の場合、若い頃、健診を受けていない、治療が必要となっても病院に行かないという傾向があり、高齢になっても重症化してから病院にかかるため、多くの医療費がかかってしまっています。そして、男女とも肥満割合が一番高く、65歳未満の死亡率が全国一位という残念な現状があります。

生活習慣病は自覚症状がなく、定期的に検査を受けないと発見が遅れることもあるため、市では医療機関・調剤薬局窓口で健診受診の声掛けをしていただいています。

特定健診は、市内ほとんどの医療機関で受けられます。また、ナイト健診や土日の集団健診、市役所本庁でのまちかど健診なども実施しています。無料の特定健診を、ぜひ受診してくださいね。



那覇地区薬剤師会会長川満直紀さんへ、特定健診の呼びかけをお願い

那覇市長
城間幹子